この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

マックス株式会社

本社・営業本部	〒103 中央区日本橋箱崎町6－6	TEL(03)3669-8121(代)
東京支店	〒103 中央区日本橋箱崎町6－6	TEL(03)3669-8118(代)
札幌店	〒060 札幌市中央区大通り東6－12－8	TEL(011)261-7141(代)
仙台店	〒983 仙台市若林区卸町東2－1－29	TEL(022)236-4121(代)
名古屋支店	〒461 名古屋市東区徳川1－11－23	TEL(052)935-8531(代)
大阪支店	〒553 大阪市福島区玉川1－3－18	TEL(06)444－2031(代)
広島店	〒733 広島市西区南観音7－11－24	TEL(082)291-6331(代)
福岡支店	〒812 福岡市博多区上牟田1－5－1	TEL(092)411-5416(代)
盛岡営業所	〒020 盛岡市仙北町下野18－1	TEL(019)635-5575(代)
宇都宮営業所	〒321 宇都宮市簗瀬町字榎内2313	TEL(0286)36-3012
柏営業所	〒277 柏市若柴297－12	TEL(0471)32-1500
多摩営業所	〒187 小平市小川町2－1253	TEL(0423)44-6268(代)
川崎営業所	〒213 川崎市高津区久地597－1セブンエステート久地1F	TEL(044)844-4700(代)
浜松営業所	〒433 浜松市高丘町150－1	TEL(053)439-3300(代)
岐阜営業所	〒501-61 羽島郡岐南町徳田4－274	TEL(058)276-6551(代)
泉南営業所	〒596 岸和田市土生町2－30－39	TEL(0724)36-2211(代)
神戸営業所	〒658 神戸市東灘区田中町3－3－3	TEL(078)412-6220(代)
北九州営業所	〒802 北九州市小倉北区三朗丸3-6-20久野ビル1F	TEL(093)931-3733
南九州営業所	〒891-01 鹿児島市東谷山6－17－7	TEL(099)269-5347
新潟マックス㈱	〒955 三条市東裏館2－14－28	TEL(0256)34-2112(代)
水戸マックス㈱	〒310 水戸市松ヶ丘2－3－27	TEL(029)255-3761(代)
群馬マックス㈱	〒379-22 佐波郡赤堀町大字今井543－2	TEL(0270)62-1123(代)
埼玉マックス㈱	〒331 大宮市日進町3－421	TEL(048)651-5341(代)
千葉マックス㈱	〒284 四街道市大日1870－1	TEL(043)422-7400(代)
横浜マックス㈱	〒241 横浜市旭区さちが丘7－6	TEL(045)364-5661(代)
長野マックス㈱	〒390 松本市笹部1－6－25	TEL(0263)26-4377(代)
長野営業所	〒381-22 長野市青木島1－35－1	TEL(0262)85-6740(代)
静岡マックス㈱	〒422 静岡市敷地1－3－26	TEL(054)237-6116(代)
金沢マックス㈱	〒921 金沢市森戸2－15	TEL(0762)40-1871(代)
富山営業所	〒930 富山市上飯野字樋向割10-8	TEL(0764)52-0182(代)
福井営業所	〒910 福井市和田東2－1711	TEL(0776)27-3378(代)
京滋マックス㈱	〒612 京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL(075)645-5061(代)
兵庫マックス㈱	〒673-04 三木市大村高柳109－1	TEL(07948)3-2121(代)
岡山マックス㈱	〒700 岡山市野田3－32－28	TEL(086)246-9516(代)
四国マックス㈱	〒761 高松市上天神町761－3	TEL(0878)66-5599
徳島営業所	〒770 徳島市末広1－4－25	TEL(0886)23-0286(代)
松山営業所	〒790 松山市天山町28－1	TEL(089)913-0608(代)
マックスサービス㈱本社	〒330 埼玉県大宮市宮原町2－99－5	TEL(048)667-6448(代)
マックスサービス㈱大阪	〒553 大阪市福島区玉川1－3－18	TEL(06)446－0815
マックスサービス㈱名古屋	〒461 名古屋市東区徳川1－11－23	TEL(052)935-8210
マックスサービス㈱福岡	〒812 福岡市博多区上牟田1－5－1	TEL(092)451-6430
マックスサービス㈱広島	〒733 広島市西区南観音7－11－24	TEL(082)291-5670
マックスサービス㈱仙台	〒983 仙台市若林区卸町東2－1－29	TEL(022)237-0778(代)
マックスサービス㈱札幌	〒060 札幌市中央区大通東6－12－8	TEL(011)231－6487

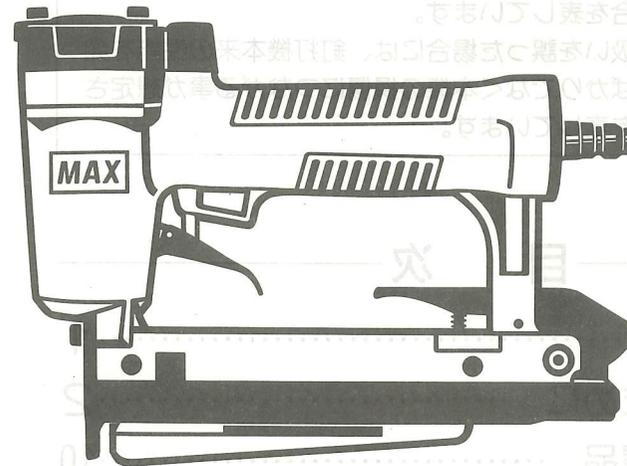
●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料) 0120-22-8358
月～金曜日 午前9時～午後6時

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

G9710

マックス釘打機エアネイラ
TA-34Bシリーズ

取扱説明書

TA-34B/425J
TA-34B/1025J
TA-34B/725M

⚠ 警告

本機は、トリガを引くだけでステープルが発射される機構になっております。下記の警告事項を厳守してください。

- ●使用前に必ず取扱説明書を読む。
- ●使用の際は、必ず保護メガネを着用する。
- ●ステープルを打つとき以外は絶対にトリガに指をかけない。
- ●射出口を絶対に人体に向けない。
- ●移動する際は、必ずエアホースをはずす。
- ●使用しない時、また、調整・修理・ステープル装塡の時は必ずエアホースをはずす。
- ●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。
- ●揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
- ●異常を感じたら絶対に使用しない。

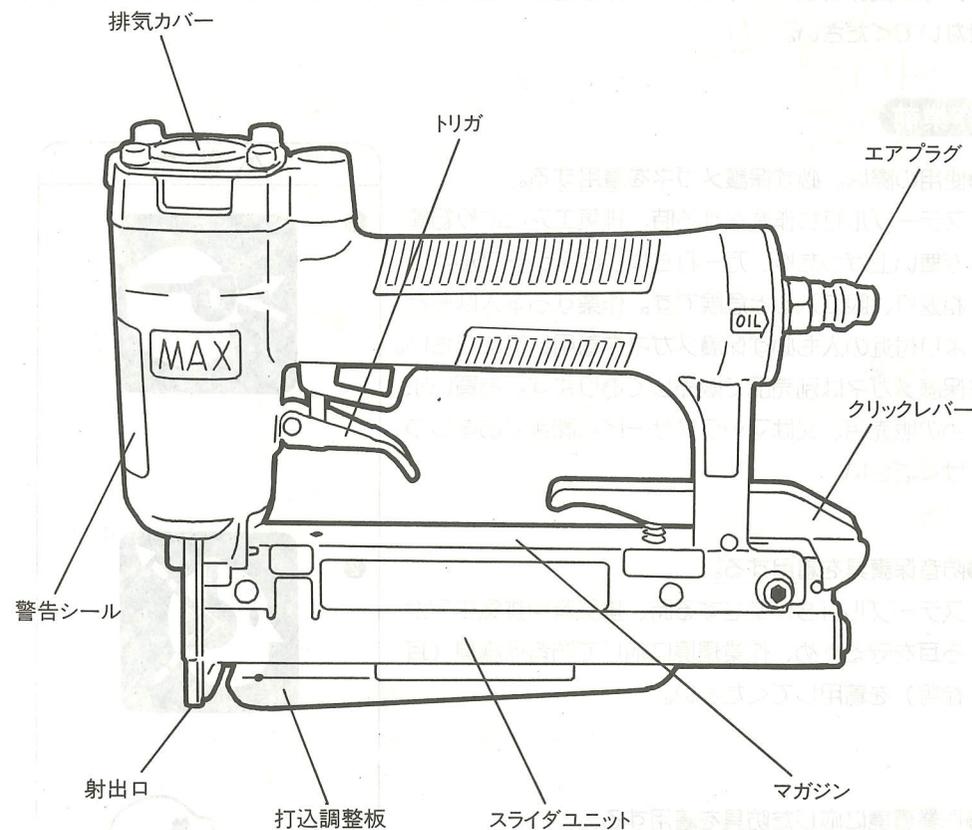
●この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
●本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

このたびは、マックス釘打機エアネイラTA-34Bシリーズをお買い上げいただきましてありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

⚠ 警告：この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。

⚠ 注意：この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。
また、取扱いを誤った場合には、釘打機本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

目　次

1 各部の名称

本機は、射出口が薄く小さいことが要求される用途向けとして造られており、トリガを引くだけでステープルが発射される機構になっております。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

作業前

⚠ 警 告

❶使用の際は、必ず保護メガネを着用する。

ステープル打ち作業をする時、排気エアにより粉塵が舞い上がったり、万一打ち損じのステープルがはね返り、眼に入ると危険です。作業する本人はもとより付近の人も必ず保護メガネを着用してください。

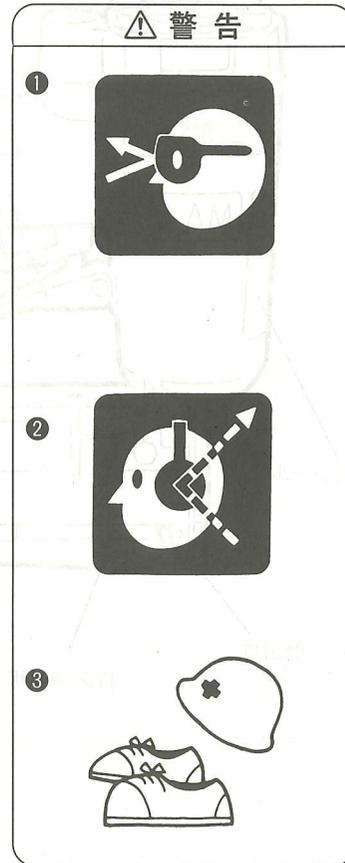
※保護メガネは別売品で販売しております。お買い求めの販売店、又はマックスサービス㈱までお申しつけください。

❷防音保護具を着用する。

ステープル打ち作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。

❸作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。

⚠ 警 告

❹エアホース接続前に必ず点検する。

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

1.ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。

2.各部部品が外れていたり、傷んでいないか。

不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱へ点検・修理に出してください。

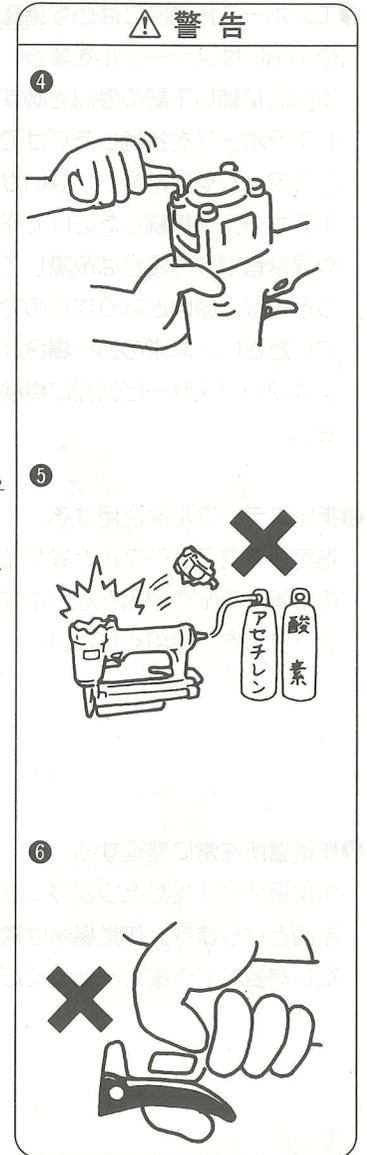
❺エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

❻エアホース接続の時には必ず厳守する。

エアホースを接続するときは誤って作動させないよう下記のことを必ず守ってください。

1.トリガに指をかけない。

2.射出口を人体に向けない。

❼エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはステープルを装塡しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1.エアホースを接続しただけで作動音がしないか。

2.エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

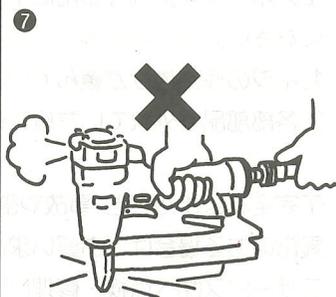
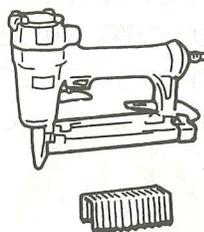
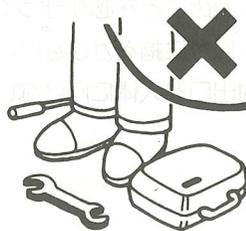
❽指定ステープルを使用する。

指定されたステープルと異なるものを使うと、本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のステープルをご使用ください。

❾作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

⚠警告

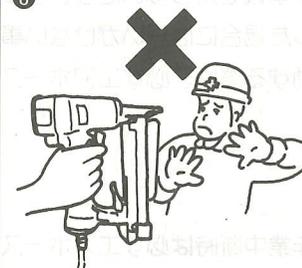
作業中

❶使用空気圧を必ず守る。

本機の使用空気圧範囲は3.5～6kgf/㎠(0.34～0.59MPa)です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。6kgf/㎠(0.59MPa)を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

❷ステープルを打つとき以外は絶対にトリガに指をかけない。

本機は、トリガを引くだけでステープルが発射されます。ステープルを打つとき以外はトリガに指をかけないでください。誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。ステープルを打つときは射出口を確実に対象物に当ててからトリガを引いてください。

❸射出口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたステープルが人に当たらないよう作業中は付近の人に注意をはらってください。

❹向い合わせのステープル打ちは絶対にしない。

向い合ってステープル打ち作業をすると、打ち損じたステープルが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせのステープル打ちは絶対にしないでください。

⚠警告

❶

❷

❸

❹

❺射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったステープルや木の節などに当たった場合ステープルがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

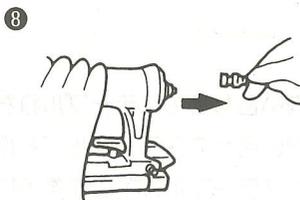
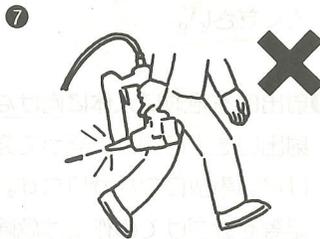
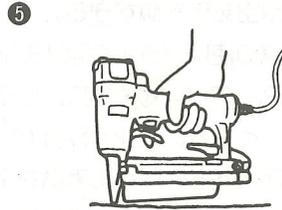
❻揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとステープル打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

❼移動する際は、必ずエアホースをはずす。

エアホースを接続した状態でトリガに指をかけたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際は、必ずエアホースをはずしてください。

❽作業中断時は必ずエアホースをはずす。

作業中のステープル装塡、調整及びステープルづまりを直すときは誤ってステープルを発射すると危険ですから、必ずエアホースをはずしてください。

2 ⚠警告 安全作業のために

❾異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

作業後

❶作業終了時には必ずエアホースをはずす。

作業終了時には、必ずエアホースをはずしてください。

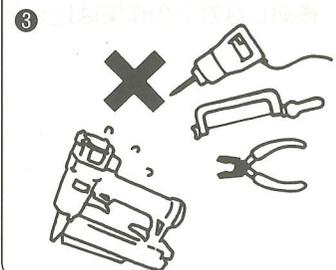
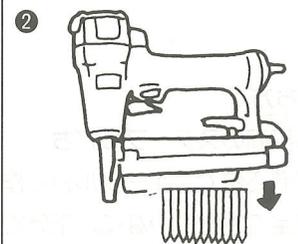
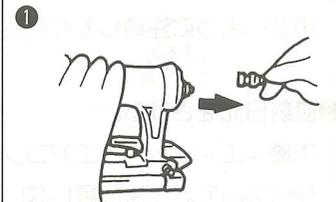
❷作業終了時には必ずステープルを抜き取る。

ステープルをマガジン内に残しておくと、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながることがあります。作業終了時には必ずマガジン内のステープルを抜きとってください。

❸本機を絶対に改造しない。

本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

屋外作業について

❶足場の安全性を充分に確認する。

足場を使っての高所作業の場合、ステープル打ち作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

❷エアホースの確保。

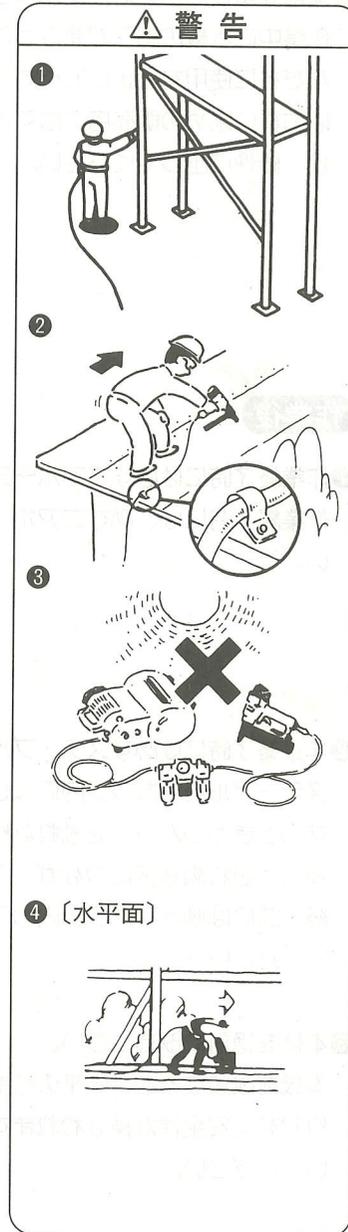
高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。

❸直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

打ち方

❹水平面のステープル打ち

前進姿勢でステープル打ち作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。

❺垂直面のステープル打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へステープル打ち作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。

※内、外壁の同時打ちは絶対にしないでください。

❻傾斜面のステープル打ち

下から上に向かって前進姿勢でステープル打ち作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。

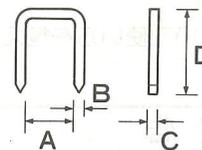
⚠警告

❺〔垂直面〕

❻〔傾斜面〕

3 仕様及び付属品

名　　称	マックス釘打機エアネイラ		
製品記号	TA-34B/425J	TA-34B/1025J	TA-34B/725M
バルブ機構	ヘッドバルブ方式		
ステープル送り機構	プッシャバネ送り		
マガジン形式	アンダーローディング方式		
寸　　法	(H)163×(W)54×(L)228mm		
重　　量	1.1kg		
使用ステープル	413J、413J-S 416J、416Jシロ、416J-S 419J、419Jシロ、419J-S 422J、422Jシロ、422J-S 425J、425Jシロ、425J-S	1013J、1013J-S 1016J 1019J、1019Jシロ、1019J-S 1022J、1022Jシロ、1022J-S 1025J、1025Jシロ、1025J-S	713M 716M 719M 722M、722Mシロ、722M-S 725M、725Mシロ、725MS
ステープル装塡数	100本(一連)		
使用空気圧範囲	3.5〜6kg/cm²(0.34〜0.59MPa)		
使用ホース内径	5mm以上		
使用オイル	タービン油1種ISO VG32(JIS1号90番)		
付　属　品	ジェットオイラ(油入)		

〈ステープルサイズ〉

●先端形状はチゼルポイントです。
●ステープル記号の末尾のSはステンレス線材です。

(単位：mm)

ステープル	A	B	C	D	先端形状
413J	4	0.6	1.2	13	
413J-S	//	//	//	//	//
416J	//	//	//	16	//
416Jシロ	//	//	//	//	//
416J-S	//	//	//	//	//
419J	//	//	//	19	//
419Jシロ	//	//	//	//	//
419J-S	//	//	//	//	//
422J	//	//	//	22	//
422Jシロ	//	//	//	//	//
422J-S	//	//	//	//	//
425J	//	//	//	25	//
425Jシロ	//	//	//	//	//
425J-S	//	//	//	//	//

(単位：mm)

ステープル	A	B	C	D	先端形状
1013J	10	0.6	1.2	13	
1013J-S	//	//	//	//	//
1016J	//	//	//	16	//
1019J	//	//	//	19	//
1019Jシロ	//	//	//	//	//
1019J-S	//	//	//	//	//
1022J	//	//	//	22	//
1022Jシロ	//	//	//	//	//
1022J-S	//	//	//	//	//
1025J	//	//	//	25	//
1025Jシロ	//	//	//	//	//
1025J-S	//	//	//	//	//

(単位：mm)

ステープル	A	B	C	D	先端形状
713M	7	0.8	1.3	13	
716M	//	//	//	16	//
719M	//	//	//	19	//
722M	//	//	//	22	//
722Mシロ	//	//	//	//	//
722M-S	//	//	//	//	//
725M	//	//	//	25	//
725Mシロ	//	//	//	//	//
725M-S	//	//	//	//	//

4 使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

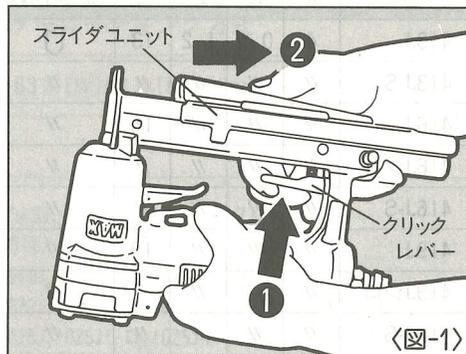
【ステープルの装塡方法】

⚠ 警告

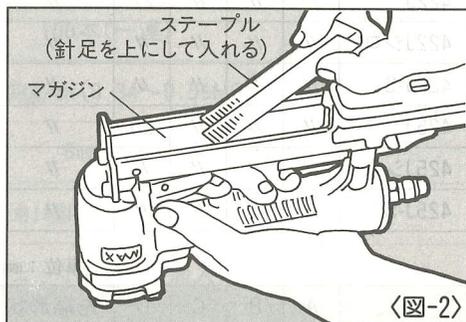
●ステープルを装塡するときは、必ずエアホースをはずす。

手順

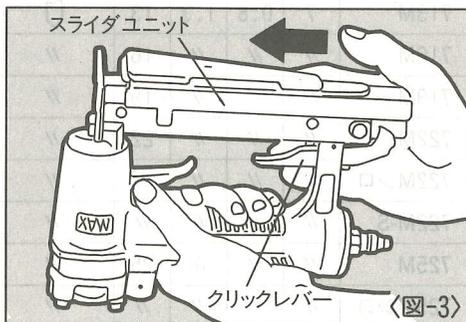
❶クリックレバーをはずし、スライダユニットを引き出します。〈図-1〉

〈図-1〉

❷ステープルの足を上にしてマガジン内に入れます。〈図-2〉

〈図-2〉

⚠ 注意

●一度に装塡できるステープルは一連です。過剰に装塡すると本機の故障の原因になります。

❸スライダユニットを押し、クリックレバーを確実にセットします。〈図-3〉

〈図-3〉

【打ち方】

⚠ 警告

●ステープルを打つとき以外は絶対にトリガに指をかけない。

本機は、トリガを引くだけでステープルが発射されます。ステープルを打ち込むとき以外はトリガに指をかけないでください。誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。ステープルを打ち込むときは射出口を対象物に当ててからトリガを引いてください。

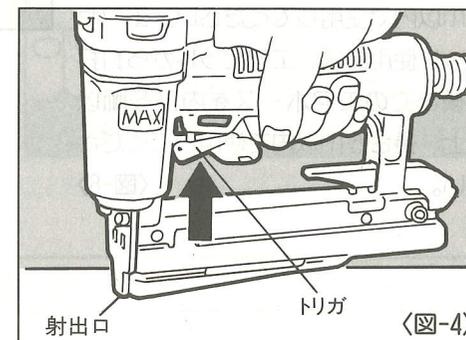
●射出口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたステープルが人に当たらないよう作業中は付近の人に注意をはらってください。

手順

❶ステープルを打とうとする場所に射出口を当てます。

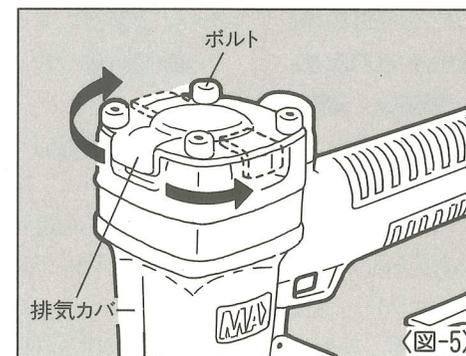
❷トリガを引きます。〈図-4〉

〈図-4〉

【排気穴の変え方】

⚠ 警告

●排気穴を変えるときは、必ずエアホースをはずす。

排気穴の方向は作業状況にあわせて、「前」「左」「右」に変えることができます。変更方法は、排気カバーの上についているボルトを六角棒スパナ4ではずし、排気カバーの位置を変えます。〈図-6〉

〈図-5〉

5 配管についての注意

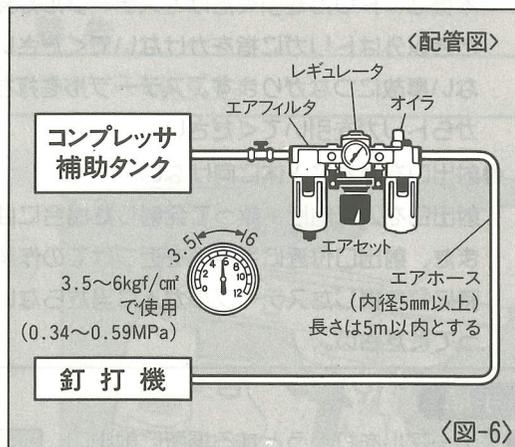
⚠ 警 告

●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

❶動力源は必ずエアコンプレッサをお使いください。高圧ガス(例：酸素、アセチレン等）は絶対に使わないでください。

❷エアセットはできるだけ本機１台に１セット取付けるようにしてください。

❸エアホースは内径５㎜以上、長さ30m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径５㎜以上、長さ５m以内で使用してください。〈図-6〉

〈図-6〉

6 エアホースの接続

⚠ 警 告

●エアホース接続の時は必ず厳守する。

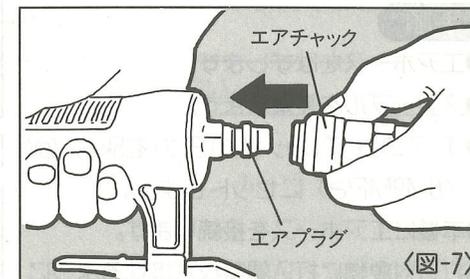
エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

1.トリガに指をかけない。

2.射出口を人体に向けない。

手順

❶エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。〈図-7〉

〈図-7〉

⚠ 警 告

●作業中断時は必ずエアホースをはずす。

7 打込調整板の使い方と打込状態の確認

本機には打込深さを調整できる打込調整板が装備されています。打込みすぎは極端に保持力が低下しますので作業の際には打込状態を確認して、打込調整板で深さを調整してください。〈図-8〉

⚠ 警 告

●調整の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

〈図-8〉

手順

❶エアホースをはずします。

❷ステープルを装塡します。

❸エアコンプレッサの圧力を5kgf/㎠（0.49MPa）にセットします。

❹本機にエアホースを接続します。

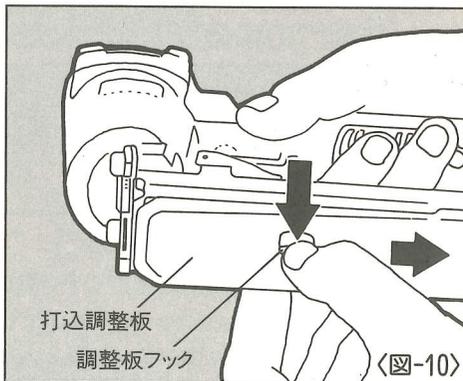
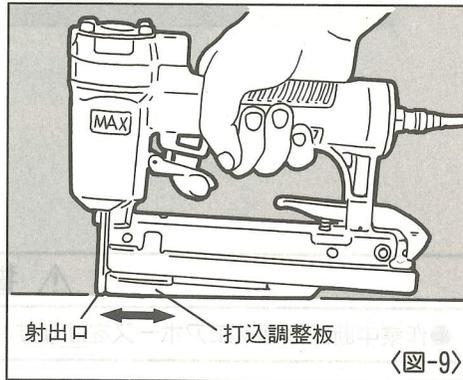
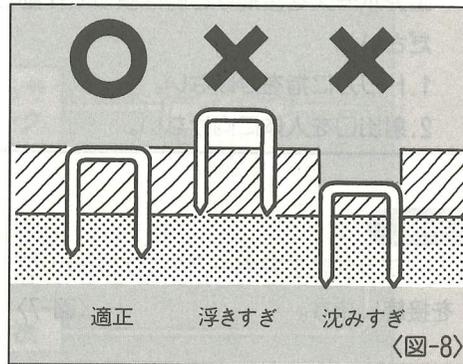
❺打込対象物に打込調整板が接するように射出口を当て、テスト打ちしてください。打込みたい深さを確認します。

❻エアホースをはずします。

❼打込調整板を調整します。〈図-9〉
調整は、調整板フックを下におろして打込調整板を左右に移動させて行います。フックをはなすと「カチッ」と音がしてセットされます。〈図-10〉〈図-11〉
（調整は７段階あります。）

※打込調整板は、出荷時射出口に一番近い位置にセットしてあります。

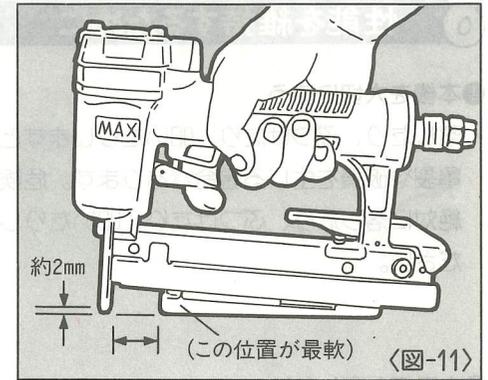
〈図-9〉

〈図-10〉

❽エアホースを接続し、さらにテスト打ちをして適正かどうか確認してください。

❾適正であれば調整完了です。不適正であれば以上の手順をくり返してください。

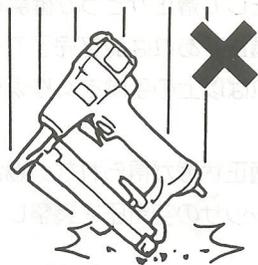
❿適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。

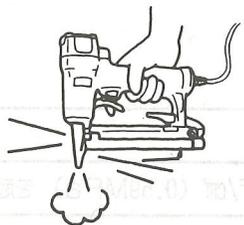
〈図-11〉

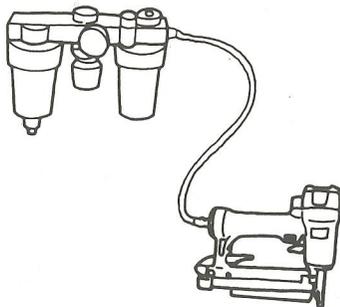
⚠ 警 告

●6kgf/㎠（0.59MPa）を超えた圧力では絶対に使用しない。

8 性能を維持するために

❶本機を大切に使う

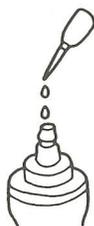
落したり、ぶつけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつけたり、叩いたりしないでください。

❷カラ打ちをしない

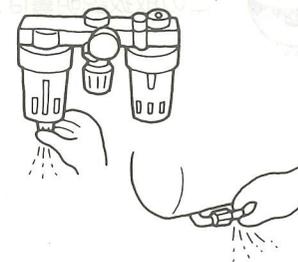
ステープルを装填しないでカラ打ちをくり返し行うと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

❸エアセットを使用する

エアセットを使わないとエアコンプレッサ内の水分やゴミが本機内に入り、錆や摩耗が発生して作動不良の原因になります。なお、エアセットから本機までのエアホースは長すぎると圧力低下となりますので5m以内にしてください。

❹本機の水抜きをする

作業終了時エアプラグを下に向け十分水抜きしてください。

❺指定オイルを注油する

オイルはタービン油1種ISO VG32（JIS1号90番）を必ずお使いください。使用前使用後にエアプラグの口より2〜3滴注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。

❻エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。

❼定期的に点検する

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱にお申しつけください。